

としょかんゆうびん 中学年向け 令和3年秋

相生市立図書館 0791-23-5151

10・11・12月の行事とカレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	*	*	*	*	*	*

パネルシアター

10/17 (日)
11:00~11:30
「3つのお願い」ほか

シネマサロン

10/30 (土)
14:00~ (87分)
「恐竜超伝説 劇場版
ダーウィンが来た！」

おはなし会

10/24 (日) 11:00~11:30
えほん『しょうぼうじどうしゃじぶた』
おはなし「絵姿女房」ほか



11月

日	月	火	水	木	金	土
*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	*	*	*	*

リコーダー

11/14 (日)
11:00~11:30
「そらいろ♪コンサート」

シネマサロン

11/27 (土)
14:00~ (107分)
「アルプスの少女ハイジ」

おはなし会

11/28 (日) 11:00~11:30
えほん『すてきな三にんぐみ』
おはなし「ちいちゃい、ちいちゃい」ほか



12月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	*

人形劇

12/5 (日)
11:00~11:30
「ちいさな星の子と山ねこ」

えいが会

12/25 (土)
10:30~11:30
「Donald Duck」
「クリスマスのおくりもの」
「マッチウリの少女」

おはなし会

12/26 (日) 11:00~11:30
えほん『しんせつなともだち』
おはなし「山の上の火」ほか



■…お休み

※体調の悪い人は行事に参加できません。

開館時間…午前9時~午後7時

※行事に参加するときは、検温・手指の消毒・マスクの着用をお願いします。

ほん おすすめの本

『夜のあいだに』 テリー・ファン、エリック・ファン・作 原田勝・訳//ゴブリン書房//P

ある日、グリムロック通りに住むウィリアムがまどから外を見ると、人だかりができていました。外に出てみると、昨日まで特に変わったところのなかった木が、すまし顔のフクロウの形にかりこまれています。そして、次の日には大きなネコが、さらにその次の日には人なつこそうなウサギが…。きれいなインコやたのしそうなゾウ、ドラゴンまでもがあらわれます。そんなある日、ウィリアムは通りで知らない男の人を見かけます。

『105にんのすてきなしごと』

カーラ・カスキ文 マーク・シーモント・絵 なかがわちひろ・訳//あすなろ書房//Pーカ
金曜日の夕方、105にんの大人たちが仕事に出かける用意を始めました。男の人が92にん、女の人が13にんいます。全員がお風呂に入り、身だしなみを整えてから、黒と白の服に着がえました。そして、町の真ん中にある大きな音楽ホールへと向かいます。はたして、かれらの仕事とはなんでしょうか。



『ティリーのねがい』 フェイス・ジェイクス・作 小林いづみ・訳//こぐま社//Pージ

ティリーは人形の家で働くメイドです。料理番に指図されながら働く毎日にうんざりし、ある日、とうとうここを出て、自分の家を見つけに行くことを決めます。ティリーは子ども部屋を出て、なんとか一階にありますが、そこでくたくたになってしまいます。階段下のもの入れにあったバスケットの中でねむり、目を覚ますと…。

『ああ、たいくつだ！』 ピーター・スピアー・作 松川真弓・訳//評論社//Pース

ふたごの男の子がとてもたいくつそうにしています。二人は母親に何かしなさいと言われてなやにいき、そこでプロペラを見つめます。そして、車輪、材木、いす、くぎ、ペンキ、にかわ、布、ちょうつがい、ロープ、窓、ねじなど、家中から飛行機づくりの材料を集めはじめます。最後はエンジンを調達し、二人はおっかなびっくり空へ飛び立ちます。一方そのころ、家の中では…。

『メアリー・スミス』 アンドレア・ユーレン・作 千葉茂樹・訳//光村教育図書//Pーユ

みなさん、早起きは得意ですか。毎朝どんな方法で起きていますか。家族の人に起こしてもらっている？それとも、自分で目覚まし時計をかけて起きています？これは、目覚まし時計が広まる前に本当にあった、「ノッカー・アップ（めざまし屋）」という仕事をテーマにした本です。主人公のメアリー・スミスさんは、この仕事をしてきた実在の人物で、うら表紙には写真もあります。どんな方法で人びとを起こしていたのかは、本を読んでたしかめてください。

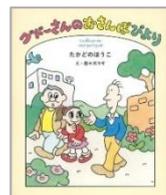
『わすれものの森』^{もり} 岡田淳、浦川良治・作//B L出版//91



小学^{しょうがく}3年生^{ねんせい}のツトムは、夕方^{ゆうがた}の学校^{がっこう}にしのびこみ、明日^{あした}の音楽会^{おんがくかい}で使う^{つか}たて笛^{ふえ}を必死^{ひっし}にさがしていた。しかし見^みつからず、あきらめて帰^{かえ}ろうとした時^{とき}、ろうかから話^{はな}し声^{こえ}が聞^きこえてくる。かくれていると、二人^{ふたり}の男^{おとこ}が教室^{きょうしつ}に入^{はい}ってきた。ニブラとサントスという二人^{ふたり}は、わすれものを集^{あつ}めるのが仕事^{しごと}で、集^{あつ}めたものはある島^{しま}に広^{ひろ}がる「わすれものの森^{もり}」の木^きにかけられ、やがて花^{はな}や実^みになるという。自分^{じぶん}のたて笛^{ふえ}もそこにあると思^{おも}ったツトムは、二人^{ふたり}にたのんでその島^{しま}に連^つれて行^いってもらう。

『グドーさんのおさんぽびより』

たかどのほうこ・著 佐々木マキ・絵//福音館書店//91-タ



グドーさんには、イカサワさんとキーコちゃんという二人^{ふたり}の友^{とも}だちがいます。ある日^ひ、三人^{さんにん}は公園^{こうえん}のベンチ^{ベンチ}にすわり、空^{そら}を見^み上げていました。流^{なが}れていく雲^{くも}を見て、何^{なに}に見えるかとおもしろくおしゃべり^{しゃべり}をしています。雲^{くも}はつぎつぎに形^{かたち}を変^かえます。三人^{さんにん}はカバ^{かたか}のような形^{かたち}に変わった雲^{くも}を見て、とつぜんあることを思^{おも}い出^だします。この本^{ほん}には、三人^{さんにん}の毎日^{まいにち}に起^おこるちょっとした出来事^{できごと}をえがいたおはなしが20入^{はい}っています。どれも短^{みじか}くて、カラーのさし絵^えがたくさんあるので、気^き軽^{がる}に読^よむことができます。

『くしゃみくしゃみ天^{てん}のめぐみ』 松岡享子・作 寺島龍一・画//福音館書店//91-マ

むかしあるところに「くしゃみのおっかあ」という人^{ひと}がいました。くしゃみのおっかあのおくしゃみのいりよくはすさまじく、ねている間^{あいだ}にくしゃみをして、朝^{あさ}起きると家^{いえ}のてんじょうと屋根^{やね}をふき飛ば^としていたという話^{はなし}までありました。くしゃみのおっかあには息子^{むすこ}が一人^{ひとり}いて、名前^{なまえ}をはくしょんといいました。本当^{ほんとう}は初太郎^{はつたろう}とつけるつもりが、これもくしゃみのせいでこのよう^な名前^{なまえ}になってしまったそうです。はくしょんは、いつも村^{むら}の人^{ひと}たちからかわれていましたが、決^{けつ}してはらをたてませんでした。やがてひとりだちする時^{とき}がやってくると、はくしょんは母^{はは}親^{おや}にあるたのみごとをします。ほかに4つのおはなしが入^{はい}っています。



『パイパーさんのバス』

エリナー・クライマー・作 クルト・ヴィーゼ・絵 小宮由・訳//徳間書店//93-ク

パイパーさんは、町^{まち}でバス^{うんてんしゆ}の運転手^{あか}をしています。いつも明るく元^{げん}気で、自分^{じぶん}の仕事^{しごと}を気^きに入^いっていました。ところがふとしたきっかけで、パイパーさんは自分^{じぶん}に家^か族^{ぞく}がいないことをさびしく思^{おも}うようになり、すっかり元^{げん}気をなくしてしまいます。そんなある日^ひ、パイパーさんは家^{いえ}に帰^{かえ}るとちゅうで、茶色^{ちやいろ}い子^こ犬^{いぬ}を見^みかけます。その犬^{いぬ}はアパ^{いぬ}ートへついで来て、部屋^{へや}の中^{なか}にまで入^{はい}ってきます。追^おい出^だすこともできず、ひとばんだけとめることにしました。次^{つぎ}の日^ひ、いつものように仕事^{しごと}を終^おえてアパ^{かえ}ートに帰^きると、昨日^{きのう}の子^こ犬^{いぬ}がパイパーさん^まを待^まっていました。

『ハートウッドホテル1』

ケイリー・ジョージ・作 高橋和枝・絵 久保陽子・訳//童心社//93ージ

ねずみのモナは小さいころに両親をなくし、ひとりで生きてきました。秋のある日、モナがくらすファーンウッドの森にひどいあらしがやってきます。モナは住んでいた家を失い、森のなかをさまよい歩きます。とちゅうで川に落ち、森のおく深くに流れ着いたモナの目の前にあらわれたのは、見たこともないほど大きな木でした。そのみきにある「H H」と書かれたハートのちょうこくに手をふれると、ハートがくぼんでドアが開きました。モナがおそろおそろの中に入っていくと…。シリーズが1～4まであります。



『人形つかいマリオのお話』

ラフィク・シャミ・作 たなか鮎子・絵 松永美穂・訳//徳間書店//94ーシ

人形つかいのマリオは、キャンピングカーで町から町へと旅をして、人形劇を上演しながらくらししていました。ある日、マリオは『王子さまと貧しい農家の娘』というおとぎ話を思いつきます。上演してみると、大変な人気が出て、たちまち有名になります。それからというもの、マリオは毎日そのお話を上演し続けました。貧しかったマリオはとてもお金持ちになりましたが、人形たちは毎日同じ役をさせられることにすっかりたいくつしてしまいます。そしてある日、とうとうがまんでできなくなった人形たちは、近くにハサミが落ちていることに気がつき…。

『リンゴの木の上的おばあさん』

ミラ・ローベ・作 塩谷太郎・訳//岩波書店//94ーロ

アンディにはおばあさんがいません。近所に住む子どもたちのなかで、おばあさんが一人もいないのはアンディだけです。友だちがおばあさんの話をするたびに、むねがちくりといたみました。そしてその話を思い出すたびにさびしく思いました。そんなアンディを見て、おかあさんはおばあさんの写真を見せてくれます。そのあと、アンディがいつものように庭にあるリンゴの木に登ると、そこには一人のおばあさんがいました。そのおばあさんは、写真で見たアンディのおばあさんのすがたそっくりで…。

『ノウサギのムトゥラ』

ビヴァリー・ナイドゥー・作 ピート・フロブラー・絵 さくまゆみこ・訳//岩波書店//99

この本には、アフリカ南部のツワナの人たちに伝わる昔話が7つ入っています。主人公はノウサギのムトゥラ。おかを半分ほどのぼったところにあるほらあなに住んでいます。体の小さなムトゥラはいつも頭を使って、大きくて力の強い動物たちから、自分の身を守っていました。ある日、ムトゥラはあいさつを返してくれないゾウに、つなひきの勝負をもちかけます。ゾウは、勝負をすれば自分が勝つと言いはるムトゥラのことをばかにしますが、ムトゥラにはある考えがありました。